

令和5年度 浜松市立金指小学校 学校評価報告書

1 結果と考察

(1) 全体

＜評価できる項目＞（肯定的評価が児童、保護者、職員全てが85%以上だった項目）

○学校は楽しく、安心して生活できる …児童90% 保護者96% 職員100%

＜課題となる項目＞（肯定的評価が80%未満だった項目）

●自分にはよいところがある …児童80% 保護者92% 職員100%

＜考察＞

「学校は楽しく、安心して・・・」の項目は、おおむねよい結果でした。しかし、10%の児童が否定的評価をしているので、一人一人の児童に寄り添いながら、安心して生活できる集団になるよう支援していくことで、否定的評価をなくしていきたいと思います。また、「自分にはよいところがあると思う。」の項目では、20%の児童が否定的な評価をしています。

児童の頑張りや、良いところを本人に伝えるとともに、家庭にも伝えていき、いろいろな人や、場面で児童を認める機会をつくっていきたいと思います。

(2) こころ豊かな子

＜評価できる項目＞（肯定的評価が児童、保護者、職員全てが85%以上だった項目）

○すすんであいさつをしている …児童94% 保護者85% 職員91%

○友達が困っている時に助ける …児童91% 保護者98% 職員100%

＜課題となる項目＞（肯定的評価が80%未満だった項目）

●正しい言葉遣い …児童94% 保護者78% 職員91%

●困った時に相談しやすい …児童80% 保護者78% 職員91%

＜考察＞

「あいさつ」については1学期の学校評価で教師の評価が低かったため、2学期以降、各学級で意識するポイントを考え、実行しました。その結果、1学期よりも登下校時のあいさつを大きな声でできる児童が増えました。「友達が困っている時に・・・」の項目は、児童の自己評価も大変高く、金指小の良いところの一つです。特に高学年が低学年にやさしく声をかける姿は、日常生活でたくさん見られました。また、昼休みにも、学年関係なく仲良く遊んでいて、金指小の良い文化になっていると思います。

「言葉遣い」については、保護者の評価が低くなっています。家庭での言葉遣いも含め、保護者と連携しながら、人を傷つけない言葉遣いを意識させていきたいです。「困った時に相談しやすい」については、児童と保護者の評価が低いです。2か月に一度、「生活・いじめアンケート」を行った後、全児童に担任が教育相談を行っています。そこでも、なかなか自分の困り感を伝えることができない児童がいることが分かります。また、保護者からは、いじめアンケートがどういうものが分からないというご意見もありました。来年度は、いじめアンケートがどういう内容かを保護者にお知らせする機会を設けたいと思っています。

(3) たくましい子

＜評価できる項目＞（肯定的評価が児童、保護者、職員全てが85%以上だった項目）

○好きなこと、得意なことに力いっぱい …児童 95% 保護者 92% 職員 100%

＜課題となる項目＞（肯定的評価が80%未満だった項目）

●めあてを決めて運動 …児童 88% 保護者 58% 職員 91%

●あきらめずに何回も …児童 85% 保護者 56% 職員 64%

●生活リズムを整え・・・ …児童 93% 保護者 77% 職員 91%

＜考察＞

「めあてを決めて・・・」の項目は、保護者の評価が低いです。「自分のめあてを決めて」が保護者に伝わっていないかもしれません。学校で運動する時は、みんな自分なりの目標を決め、取り組んでいる子は多いです。「あきらめずに・・・」の項目は、児童、保護者、職員ともに低い数字でした。本校の児童は、「できる。」と思うことには頑張るけれども、ちょっと難しそうだなと思うと簡単にあきらめてしまう傾向が見られます。苦手なことがあると、すぐに誰かが助けにきてくれる。このことはよい反面、自分自身で何とかしようという気持ちが育ちにくくなります。時には、教師も保護者も子供に任せてみることを意識する必要があるかもしれません。「生活リズムを整え・・・」の項目は、保護者の評価が低いです。児童から、遅くまでゲームをやっていた、ゲーム上でトラブルになったという話を聞く時もあります。学校でもゲームやSNSとの付き合い方についての情報モラルに関する学習を来年度は力を入れて行う予定です。

(4) 未来を切り拓く子

＜評価できる項目＞（肯定的評価が児童、保護者、職員全てが85%以上だった項目）

○金指の町のよさ …児童 89% 保護者 96% 職員 100%

＜課題となる項目＞（肯定的評価が80%未満だった項目）

●自分の考えや気持ちを発表 …児童 85% 保護者 96% 職員 64%

＜考察＞

「金指の町のよさ」の項目の評価は高いです。これは、年間を通して、どの学年も金指の地域について学習している成果だと思えます。また、協力してくださる地域の方もたくさんいらっしゃいます。そのおかげで、子供たちも充実した学習ができています。本当に、地域に感謝です。「自分の考えや気持ちを発表」の項目は、教師の評価が低いです。

自分の考えを伝えたい、発表したいと思っている児童がいる一方で、なかなか表立って自分の考えや気持ちを伝えることが苦手な子への支援を教師がもってとする必要があると感じています。

(5) 連携

＜評価できる項目＞（肯定的評価が児童、保護者、職員全てが85%以上だった項目）

○学校は相談しやすい …児童 評価なし 保護者 94% 職員 100%

＜考察＞

「学校は相談しやすい」の項目については、保護者の評価が昨年度より4%ほど上がっており、うれしく思います。便りやブログ等で積極的に情報発信をしてきたことも一因ですが、何より教職員一人一人が丁寧に、温かく対応してきた結果だと考えます。引き続き、100%を目指していきたいと思えます。

2 学校関係者評価

2月16日（金）に開催した学校関係者評価委員会（学校運営協議会）において、結果及び考察を委員に報告しました。その際、委員のみなさんから、次のような意見をいただきました。

- 苦手なことやすぐにできないことがあっても、あきらめずに練習するには、意欲の継続が必要。全員同じ目標だと、難しい場面もある。個に応じた目標設定をすることが必要ではないか。
- SNSの利用がかなり盛んになっている。家庭によっても、どこまで親が管理するか違いがある。使い始める時に、家庭での約束事をしっかり決めることが大切。
- SNSとの関わり方を、保護者も学習した方がいい。毎年、情報モラル講座を開き、児童も保護者も話を聞く機会を設けた方がいい。

3 学校関係者評価を受けて

学校関係者評価を基に、以下の点について改善を図ります。

- 小規模校の良さを生かし、児童一人ひとりに寄り添った目標設定をしていきたいと思えます。また、結果だけにこだわりすぎず、努力の過程が視覚的に分かるような掲示物やワークシートを作成したいと思います。
- SNSとどのように関わるかを、児童、保護者ともに学ぶ機会を設けます。外部講師を招いて情報モラルについての話を聞いたり、情報モラル週間を設定し、発達段階に応じて、どのようにゲームやSNSと関わるかを考えたりしていきます。